

情報モラルと現代的な課題の取扱い



○情報モラルに関する指導

学習指導要領解説では、情報モラルは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度と捉え、その内容としては、情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワークが例示されている。道徳科においては、道徳の内容との関連を踏まえて、特に、情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に取り扱うことが考えられる。

社会の情報化が進展する中で、児童生徒は情報機器を日常的に用いる環境の中で生活することが多くなり、学校教育でも児童生徒の実態に応じた対応が求められている。特に、情報モラルを含めた情報活用能力の育成は、教科等横断的な学習により、その充実が求められる。道徳科においては、情報モラルに関する指導について、道徳的価値に関わる学習を行う特質があることを踏まえた上で、情報モラルに関わる題材を生かして話し合いを深めたり、コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れれたりするなど、創意ある多様な工夫がなされることが期待されている。

例えば、相手の顔が見えないメールと顔を合わせた会話との違いを理解し、メールなどが相手に与える影響について考えるなど、インターネットに起因する心のすれ違いなどを題材とした思いやり、感謝や礼儀に関わる指導が考えられる。また、インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事などを題材として規則の尊重に関わる授業を進めることも考えられる。その際、問題の根底にある他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて、児童生徒が考えを深めることができるようにすることが重要であり、情報機器の使い方や具体的な練習を行うことに終始することのないよう留意しなければならない。

○現代的な課題に対する指導

学習指導要領解説には、「今後グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。」と記されている。こうした課題に対応していくためには、社会を構成する主体である私たち一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を担っている。

道徳的価値は、現代社会の様々な課題に直接関わっている。現代社会を生きる上での課題を扱う場合には、問題解決的な学習を行ったり、話し合い（中学校では討論）を深めたりするなどの指導方法を工夫し、課題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育など、学校の特色を生かして取り組んでいる教育課題については、学校の教育活動全体と関連付け、人としてのよりよい生き方に対する考えを深めていくことができるような取組が求められている。

科学技術の発展に伴う生命倫理の問題や社会の持続可能な発展を巡っては、様々な道徳的価値に関わる葛藤がある。現代的な課題には、葛藤や対立のある事象も多いが、児童生徒の発達の段階に応じて、これらの課題には多様な見方や考え方があり、一面的な理解では解決できないことに気付かせ、多様な価値観をもつ人々と協働して問題を解決していこうとする意欲を育てていきたい。